

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市人と動物との共生社会推進懇話会		
事務局 (担当課)		生活衛生課 電話 042-769-8347 (直通)		
開催日時		令和7年12月23日(火) 午後3時～5時		
開催場所		ウェルネスさがみはらB館4階 会議室1		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)		
	その他	0人(別紙のとおり)		
	事務局	6人(保健衛生部長、生活衛生課長、他4人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 あいさつ  2 議 題 (1) 動物愛護センター基本計画(案)について (2) 動物愛護キャンペーン実施結果及び来年度の啓発事業の検討について (3) その他		

## 審 議 経 過

令和7年度第3回会議が開催された。

主な内容は次のとおり。

### 1 あいさつ

保健衛生部長あいさつの後、事務局から本会の所掌事項の説明を行った。

### 2 議事

(司会進行：高木会長)

#### (1) 動物愛護センター基本計画(案)について

事務局から、資料に基づき説明。

(大矢委員) 動物愛護センターの建物を建築するのは市か、麻布大学か。両者が各々使う部分が混在してしまう形であると、主体性がどこにあるのかが気になる点である。万が一、事故等が発生した場合など、麻布大学への影響を及ぼす可能性などを鑑みると、1つの施設に2つの団体が混在するのはいかがなものか。

(事務局) 基本計画案P.17のとおり、建築は麻布大学が行い、市はその一部を借り受けることで調整している。

(大矢委員) その場合、賃貸契約は相当長い期間を想定しなければ、キャンパス内の建物の変更や取壊しの計画の影響により、再度、動物愛護センターの設置を考えなければならないことにならないか。

(事務局) 概ね25年以上の長期契約を想定し、必要に応じて延長することや、延長しない場合の事前通告を取り決めておくことで、そのリスクを軽減できると判断した。

(大矢委員) 建物の耐用年数は25年以上あると考えられるため、耐用年数を目途にするのも一つの方法だと考える。25年と聞くと長いように思えて意外と短いものである。色々な問題が起きたときにまた一から検討するのは大変なため、途中で双方調整し変更可能である前提で、更に長期契約を締結する方法もあるのではないか。

(事務局) 建物はRC構造を想定しているため25年以上の耐用年数があるが、麻布大学と締結した基本協定においては、基本的に25年間とし、その後の延長を可能としている。

(高木会長) 全国的に同様事例がほとんどないこともあり、挑戦的な側面があるが、うまく回せるとよいものであると考える。

(高木会長) この基本計画に書いていないが、今後の打合せ等の中で、新たな連携や運用、事業などの提案がある場合は、随時検討いただけるのか。

(事務局) この基本計画は基本理念や基本方針を示したもので、具体的な実施事業を限定するものではない。新たな提案は随時協議し、柔軟に検討する。麻布大学の中に設置する良さを生かしていきたい。

(石丸委員) P39のモデルプランは、概ねこの図面で整備するということか。

(事務局) ここに示したモデルプランはあくまで配置の一例であるため、このとおりに設計するわけでも、これをもとにするというわけではない。

(石丸委員) 譲渡希望者がいつでも来館できるようになっているのか、譲渡希望者との面談等はどこで行う予定か、貰われない猫や看取りになる子、病気にかかってしまった子の隔離をどうするかなど、運用面を聞いたうえで諸室を確認したいが、今後そういったことを話すことができる機会はあるか。

(事務局) 設計の主体は麻布大学であるが、市としても、あらゆる機会を捉えて、ご意見を伺いたい。

(土屋委員) 大学内に動物愛護センターができるということであるが、大学とは明確に区分けされるのか。また、施設外に犬が逃げってしまうことがないような対策は取られているのか。

(事務局) 大学と動物愛護センターは、区画を設け、動線が混在しないように配慮する。また、施設内から外に動物が逃げないように逸走防止に配慮した仕様とする。

(土屋委員) 災害時のため、非常用電源や井戸水の利用は想定されているか。

(高木会長) 麻布大学に非常用電源が備わっているため、その利用については、今後協議するものと考えている。また、大学では井戸水を使用しており、動物愛護センターでも井戸水を利用することが想定される。

(2) 動物愛護キャンペーン実施結果及び来年度の啓発事業の検討について  
事務局から、資料に基づき説明。

(事務局) 来年度の市民提案協働事業としてたんぽぽの里さんから提案のあった、さがみんとにゃんワンフェスタが、採択された。事業開始1年目の来年度は、10月3日(土)、4日(日)に、相模大野にあるユニコムプラザをメインに、動物愛護キャンペーンと同日開催する予定。

(石丸委員) 動物に興味がない人でも立ち寄れるイベントとしたり、以前に動物愛護キャンペーンの実施会場としていたショッピングモール内を予定していたが、予算や会場確保等の都合でユニコムプラザでの開催とした。災害時の備えなどの啓発はもちろんだが、お子さんが参加できるようなワークショップを開催するなど様々な企画を考えている。

(山田委員) 動物愛護週間にあわせ、このようにたくさんイベントが行われていた

とは知らなかった。実際にどのくらいの人数が参加しているのか。

(事務局) ペットの写真コンテストは、238作品の応募があり、市立図書館やエコパークさがみはらで展示をし、人気投票には154票投じられた。犬のしつけ方教室(入門編)には、8組11名受講していただいた。小学生どうぶつ講座「ワンコ博士になろう」は、6名の小学生に受講していただき、認定証を交付した。わん・ニャンおはなし会は、市立図書館に来館していた保護者とお子さんを対象に6組12名の方に参加していただいた。猫の譲渡面接会では、30名の方に来場していただき、4匹の譲渡が成立した。

#### (4) その他

9月から12月の期間に実施したクラウドファンディング型ふるさと納税の実施結果について、事務局から説明した。

(山本委員) 昨年度と実施内容がほとんど変わらず、残念だった。何か返礼品を設けたり、新たな事業を実施したりするなど、目新しいことを行わないとなかなか寄付は集まらない。

以上

## 相模原市人と動物との共生社会推進懇話会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	高木 哲	麻布大学	教授	出席
2	椿 直哉	一般社団法人 相模原市獣医師会	会長	出席
3	山田 佐代子	公益財団法人 神奈川県動物愛護協会	会長	出席
4	大矢 秀臣	全日本動物輸入業者協議会	会長	出席
5	田村 久司	相模原市自治会連合会	理事	欠席
6	櫻井 正孝	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会	福祉推進課 地域支援係長	欠席
7	石丸 雅代	たんぼぼの里	代表	出席
8	山本 和子	相模原市動物愛護推進員		出席
9	土屋 百合子	公募市民		出席